

「つくる会」教科書を使う現場は、いま。

「新しい歴史教科書をつくる会」の分裂

「新しい教科書をつくる会」が主導した教科書は、前回2005年の採択においても「歴史」が0.4%、「公民」が0.2%の採択率に止まった。

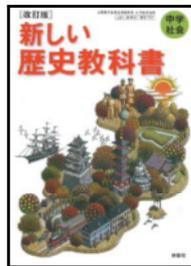
「つくる会」ではこの「惨敗」の責任をめぐって内紛が続き、役員解任や内部批判などの応酬を繰り返したあげく、八木秀次高崎経済大教授らのグループが会から事実上追放される形で分裂する。

八木氏らを追放した「つくる会」では藤岡信勝氏が会長に就任し、「従来の路線を継承する」と表明した。

ところが、従来緊密な関係にあった扶桑社とは編集方針をめぐって対立・絶縁し、今後は「自由社」から教科書を発行することとなる。

扶桑社が「つくる会」と袂を分かった理由は、「現行の『新しい歴史教科書』に対する各地の教育委員会の評価は低く、内容が右より過ぎて採択が取れない」と判断したためと言われている。

一方、八木氏らのグループは新たに「改正教育基本法に基づく教科書改善を進める有識者の会」（教科書改善の会）を結成し、「より幅広い支持を得られる」教科書の発行をめざす、としている。



扶桑社は八木氏らの「教科書改善の会」を支援しており、現在の扶桑社版教科書も引き続き発行する。

このため今回の教科書採択では、自由社版と扶桑社版という、ほとんど同じ内容の「つくる会」系教科書が2冊登場することとなった。

ちなみに「新規参入」となる自由社版については、昨年516カ所にも上る検定意見が付いて、一度不合格となった。再申請の結果、なおも136カ所の検定意見が付き、修正に応じて4月9日の教科書検定調査審議会ではようやく合格した。検定意見がついた箇所には、非常に多くの誤記・誤植も含まれる。執筆者に専門の歴史学者がほとんどいないことが理由と見られる。

なお扶桑社は今後、直接の教科書発行からは撤退し、2年後の2011年度からは扶桑社の100%子会社である「育鵬社」が教科書を発行することとなる。

「つくる会」教科書を使う現場では

「つくる会」教科書を使う現場の様子は、どのようになっているのだろうか。

しかし、このことを検証するのは容易ではない。個々の考え方によっても、評価は大きく分かれるだろう。

そこで、ここでは入手できた資料をもとに、肯定的な意見と否定的な声を並列して紹介することにしたい。

まず、扶桑社の発行する広報誌「虹」は、平成19年春号で「当社教科書への現場の声」を特集している。

これは、東京都杉並区や栃木県大田原市などで扶桑社版教科書を使用している中学校教師から、扶桑社の編集部が意見聴取を行った声だという。

まず、巻頭には「都内の中学教師」という名による「偏った思想はなく面白い」とする文が載っている。

保護者の中には「この教科書は受験で不利になるのではないか」「偏った思想が教えられるのではないか」などの意見を持つ人がいた。この教科書を使っての結論から言うと、この教科書はとて「面白い」と言える。

面白さの1番目は、コラムの中で神話を何度も取り扱っていることである。

「受験に不利」「偏った思想」という保護者の懸念に「この教科書は面白い」と書いても、懸念に応えることにはなっていないように思うのだが「神話を何度も取り扱う」ことも、評価は分かれるだろう。

本文では、扶桑社版の「記述の特徴」についての意見を紹介している。

- ・記述に物語性があり、授業がやりやすい。
- ・中世が簡潔な記述で指導しやすい。

しかしこの点の評価は表裏一体で、同じことに対して

- ・聖徳太子についての単元は、記述分量が多く、ここまで必要かと思う。
- ・古代が詳しく、中世の分量が薄いのは、 balan

的にどうか。

とする正反対の評価も見られる。

扶桑社の指導書によれば、古代史の配当は17時間、近現代史は40時間。これに対して中世は9時間にすぎない。「神話」「天皇」にかかわる古代史と、近現代史に力点を置くこの教科書の特徴が読み取れる。

一方、焦点の近現代史についてはこんな評価がある。

「(南京事件) 日本軍によって、中国の軍民に多数の死傷者が出た。なお、この事件の犠牲者数などの実態については 今日でも論争が続いている」という記述が、客観的で好感が持てる。

しかし、この箇所は当初の「南京事件」そのものを否定する記述が、検定の際に書き換えを求められた箇所である。この「書き換え」が「好感」されたことになり、執筆者にとっては皮肉な評価であろう。

杉並区の教室では

一方、先日私は杉並区で2人の教員とお会いし、さきほどの「都内の中学教師」とはまた違う見解を聞くことができた。(プライバシー保護のため、発言とディテールには若干の修正を加えてある)

どちが杉並区の現場教員の一般的な声かを判断する材料は、私にはない。しかし、先の広報誌の意見と併せ、現場の複雑な思いにふれることはできると思う。

竹村 杉並区で「つくる会」教科書が採択されてから間もなく4年になりますが、教科書を使う現場の様子はいかがでしょうか。

A教諭 みんな冷ややかと言うか 「とりあえず机に置いておく」という感じです。たまに、写真や資料を使う程度ですね。

竹村 「教科書をちゃんと使うように」という指導はないのですか？

A教諭 校長からは「検定に通っている教科書なのだから使うように」と言われました。また、「教科書を批判しないように」とも。

B教諭 最初の年は、テスト問題を区教委に提出するように求められたり、指導主事が授業を見に来てきました。ただ2年目からは、そんなこともなくなりましてけれど

竹村 それはどうしてですか。

B教諭 やはり「かなり無理のある教科書」だということ、みんなわかっているんですよ。

山田区長が政治の力で強引に採択させた教科書

ですから、区長が変わればまた別の教科書に変わるだろうし 淡々とやろう、という感じです。

竹村 「つくる会」教科書を使うことで、子どもたちにはどんな影響があったのでしょうか。

A教諭 懸念はおおいにあったのですが 現実には、少なくとも杉並ではあまり影響はないと思います。

B教諭 それが良いかどうかは別にして、受験を考えればみんな別の参考書や問題集で勉強せざるを得ないですよ。高校の入試問題に「大東亜戦争」といった「つくる会」教科書の概念が出題されるわけではありませんから。

竹村 杉並の学習塾では、「つくる会」の教科書に準拠した指導が行われているのですか？

A教諭 いいえ、そんなことはありません。杉並だけの教科書のために、そんな手間はかけませんよ。

竹村 実際に授業を行って、困る点がありますか？

A教諭 困ることだらけなのですが (笑)、たとえば「蘇我氏の横暴」などがあるように、非常に主観的なんですね。

要するにこの教科書の記述は「歴史学」ではなく、「歴史物語」なんです。歴史を構造的につかまえる視点や、考える力は育ちにくいと思います。

B教諭 卑近なことと言えば、教科書準拠のワークがありません。歴史用語も他社と異なるものがありますから、問題集や資料とそぐわないんです。みんな、別の見解や史実を口頭で説明しています。

あと、中世の記述が少ないので、「これでいいのかな？」という感じですね。

鎌倉時代に冷ややかな教科書なので、湘南地区の郷土学習には向かないのではないですか？

教科書採択に政治が介入してはならない

今年が教科書の採択替えの年である。ふたたび採択をめくってさまざまな政治的動きも活発化するだろう。

だが本来、教育は政治から独立したものでなければならぬ。まして、教科書の採択に政治が介入することがあってはならない。この点は、「つくる会」教科書に賛成・反対の立場を問わず、厳に慎まなければならないことである。

したがって、議員の立場にある私もここで「つくる会」教科書の「是非」を論じたつもりはない。採択の主体はあくまで教育現場であり、その最終的な責任を負う教育委員会である。私の役割は、あくまで採択の公正が保たれているかどうか、監視することである。

教育現場や教育委員会が「不当な圧力に屈する」ことなく、主体的な立場を貫き、教育的な観点から地域の子どもたちに最適な教科書を選定されるよう願う。